

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Prior Alcohol Consumption and Mortality Following Acute Myocardial Infarction 急性心筋梗塞後追跡患者の発症前のアルコール消費と死亡率	
執筆者 Mukamal KJ. Maclure M. Muller JE. Sherwood JB. Mittleman MA	
掲載誌 (番号又は発行年月日) JAMA 2001 Apr 18; 285(15): 2004-6	
キーワード アルコール消費、死亡率、急性心筋梗塞、過去の飲酒状況	
要 旨 <p>(目的) これまでの研究で、1~2 日間にアルコールを 1 杯程度消費する人は、非飲酒者や多量飲酒者よりも初発急性心筋梗塞の危険度が低いと報告されている。しかし、急性心筋梗塞後の死亡率に関しての過去の飲酒の影響は明らかになっていない。そこで、急性心筋梗塞の生存者の間で、長期死亡率に関して過去のアルコール消費の影響を明らかにすることを目的とした。</p> <p>(方法) 1989 年 8 月から 1994 年 9 月の間に、前向きコホート研究を全米 45 地域と 3 次救急病院で行った。平均追跡期間は 3.8 年間であった。患者は 1989 年から 1994 年の間に急性心筋梗塞で医療機関を受診した 1913 人であった。主な指標として、急性心筋梗塞発症前年のビール、ワイン、リキュールの週平均の消費量と全死因死亡率を比較した。</p> <p>(結果) 1913 人の患者の内、896 人(47%)が非飲酒者であり、696 人(36%)がアルコール消費週 7 杯程度未満、321 人(17%)がアルコール消費週 7 杯程度以上であった。非飲酒者と比較すると、アルコール消費週 7 杯程度未満の人は全死因死亡率が低かった(100 人年中 3.4 と 6.3、ハザード比 0.55; 95%信頼区間 0.43-0.71)。アルコール消費週 7 杯程度以上の人と比較しても、同様の結果であった(100 人年中 2.4 と 6.3、ハザード比 0.38; 95%信頼区間 0.25-0.55, P<0.001)。飲酒傾向や他の潜在的な交絡因子を補正した後、アルコール消費の増加は週 7 杯程度未満の飲酒では補正後ハザード比が 0.79(95%信頼区間 0.60-1.03)であり、週 7 杯程度以上の飲酒では補正後ハザード比が 0.68(95%信頼区間 0.45-1.05, P<0.001)であり、死亡率を低下させる予測因子となった。男女共、アルコール飲酒の異なったタイプ共に、全死亡率や循環器疾患死亡率は類似した関連を示した。</p> <p>(結論) 急性心筋梗塞発症前年の自己申告による中等度アルコール消費は心筋梗塞後追跡期間の死亡率を減少させることと関連があった。</p>	